

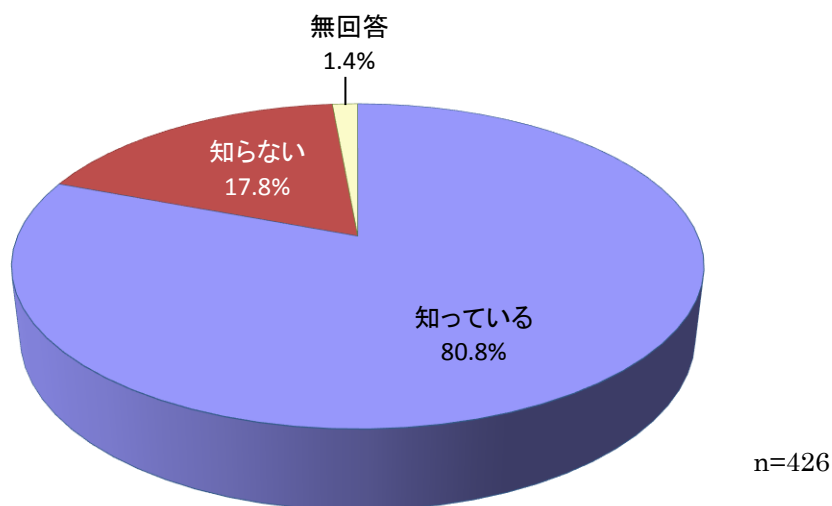
10. 住宅用火災警報器について

(1) 「住宅用火災警報器」設置義務の認知度

◇ 「知っている」が約8割

問3 1	全ての住宅等に「住宅用火災警報器」の設置が義務づけられたことを知っていますか。 ※市内のすべての住宅（一般住宅、共同住宅、店舗併用住宅等）に平成21年6月1日から設置が必要です。 (○は1つ)	n=426
1	知っている	80.8%
2	知らない (無回答)	17.8% 1.4%

<図IV-10-1>全体



全ての住宅等に住宅用火災警報器の設置が義務づけられたことを知っているかについては、「知っている」が80.8%で、認知度の高さが見受けられる。(図IV-10-1)

性別・年齢別で見ると、「知っている」は<男性/20歳代>の50.0%と<女性/20歳代>の55.0%を除く年代で7割を超えている。(図IV-10-2)

居住地域別で見ると、「知っている」は<本庁(周辺)>の77.1%を除く地域で8割を超えている。(図IV-10-2)

<図IV-10-2>性別・年齢別/居住地域別

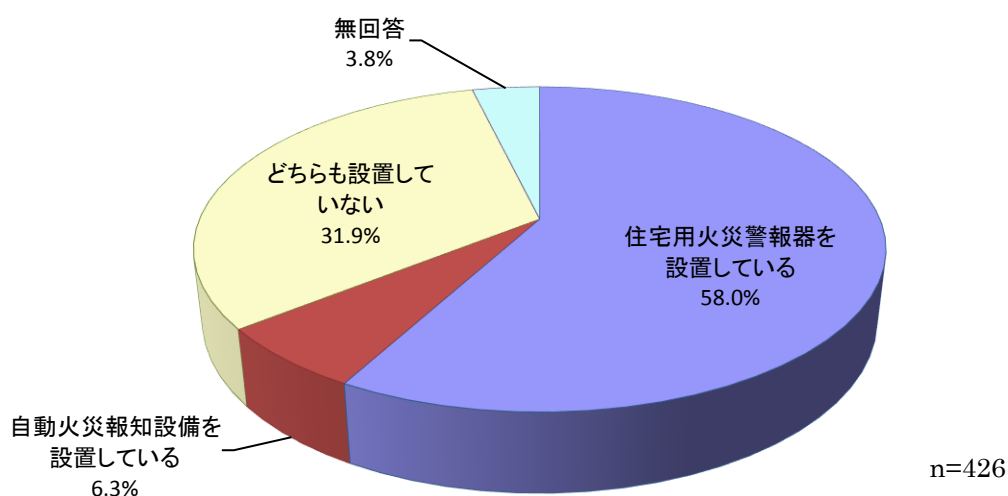


(2) 「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況

◇ 【「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」が設置されている（計）】が6割半ば

問3 2	現在、自宅に「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」が設置されていますか。	(○は1つ)
		n=426
1	住宅用火災警報器が設置されている	58.0%
2	自動火災報知設備が設置されている	6.3%
3	どちらも設置されていない	31.9%
	(無回答)	3.8%

<図IV-10-3>全体

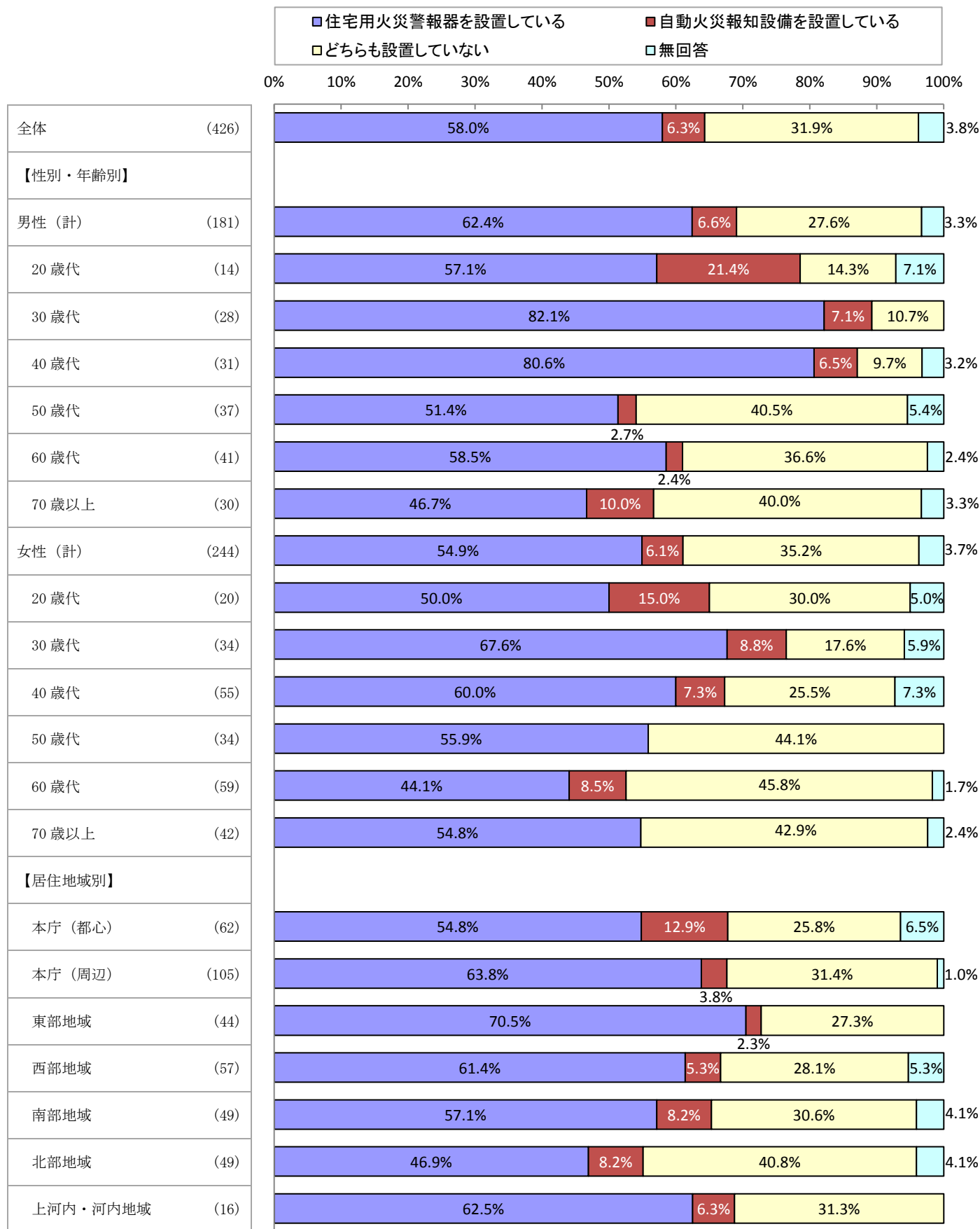


自宅への住宅用火災警報器または自動火災報知設備が設置されているかについては、「住宅用火災警報器が設置されている」58.0%と「自動火災報知設備が設置されている」6.3%を合わせると6割半ばであった。(図IV-10-3)

性別・年齢別でみると、「住宅用火災警報器が設置されている」は<男性/30歳代>の82.1%が最も高く、次いで<男性/40歳代>が80.6%であった。「自動火災報知設備が設置されている」は<男性/20歳代>の21.4%が最も高かった。一方、「どちらも設置されていない」は<女性/60歳代>の45.8%が最も高かった。(図IV-10-4)

居住地域別でみると、「住宅用火災警報器が設置されている」は<北部地域>を除く地域で5割を超えており、<東部地域>が70.5%で最も高かった。「自動火災報知設備が設置されている」は<本庁(都心)>が12.9%、次いで<南部地域>と<北部地域>が8.2%であった。一方、「どちらも設置されていない」は<北部地域>の40.8%が最も高かった。(図IV-10-4)

<図IV-10-4>性別・年齢別/居住地域別

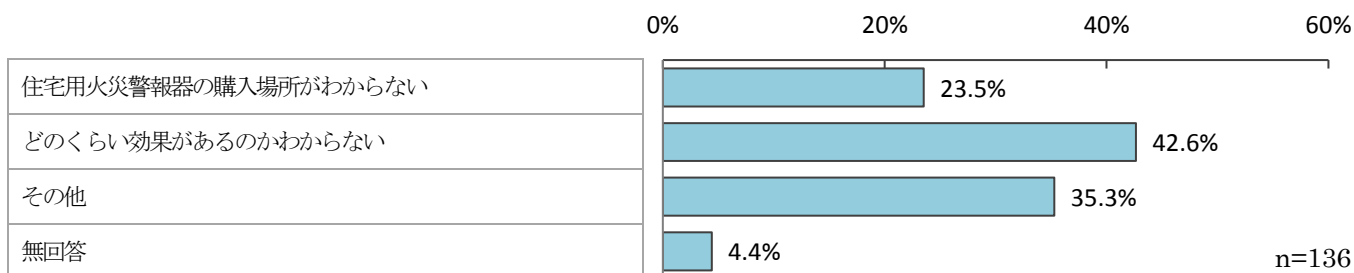


(2-1) 「住宅用火災警報器等」を設置していない理由

◇ 「どのくらい効果があるのかわからない」が4割強

問33	問32で、「どちらも設置されていない」と答えた方にお伺いします。 「住宅用火災警報器等」を設置していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)	n=136
1	住宅用火災警報器の購入場所がわからない	23.5%
2	どのくらい効果があるのかわからない	42.6%
3	その他	35.3%
	(無回答)	4.4%

<図IV-10-5>全体

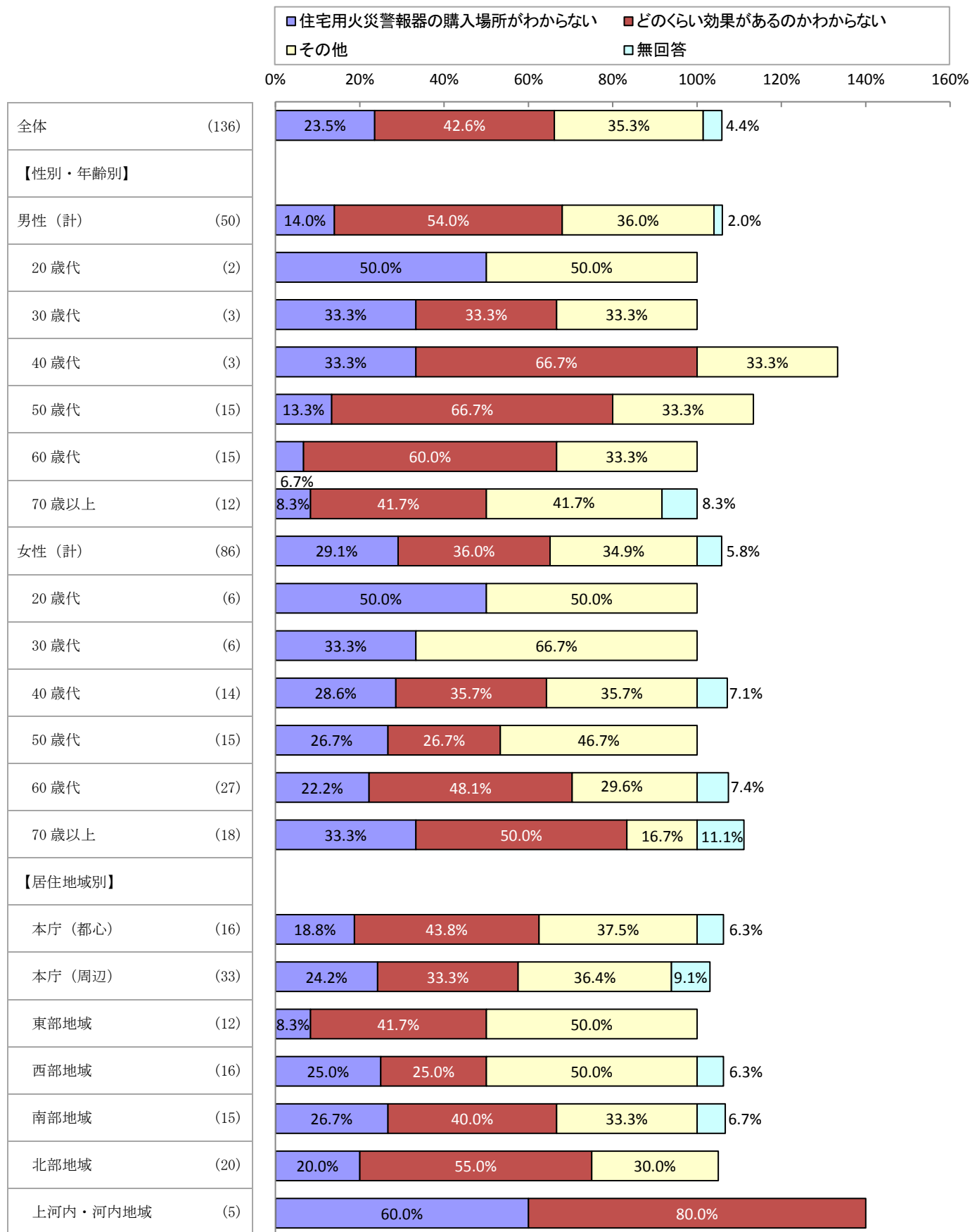


住宅用火災警報器等を設置していない理由については、「どのくらい効果があるのかわからない」が42.6%、「住宅用火災警報器の購入場所がわからない」が23.5%であった。その他としては、「知らなかった」、「賃貸住宅なので」、「費用がかかる」、「必要ない」などがあつた。(図IV-10-5)

性別・年齢別でみると、「どのくらい効果があるのかわからない」は<男性/40・50歳代>の66.7%が最も高く、次いで<女性/70歳以上>が50.0%であった。(図IV-10-6)

居住地域別でみると、「どのくらい効果があるのかわからない」は<河内・上河内地域>の80.0%が最も高く、次いで<北部地域>の55.0%であった。(図IV-10-6)

<図IV-10-6>性別・年齢別/居住地域別

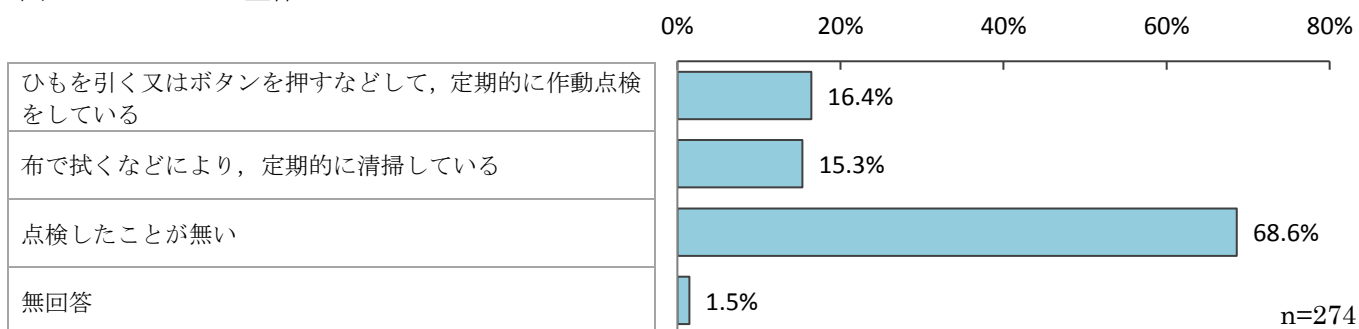


(2-2) 「住宅用火災警報器等」の点検等実施状況

◇ 「定期的に作動点検・清掃している」が約3割

問3 4	問3 2で、「住宅用火災警報器が設置されている」、「自動火災報知設備が設置されている」と答えた方 にお伺いします。 「住宅用火災警報器等」の点検等を実施していますか。(○はいくつでも) n=274
1	ひもを引くまたはボタンを押すなどして、定期的に作動点検をしている ※最新機種ของ多くは、電池寿命10年です。 16.4%
2	布で拭くなどにより、定期的に清掃している ※ほこりがつくと、火災を感知しにくくなります。 15.3%
3	点検したことが無い 68.6%
	(無回答) 1.5%

<図IV-10-7>全体



住宅用火災警報器等の点検等の実施については、「点検したことが無い」が68.6%で最も高く、「ひもを引くまたはボタンを押すなどして、定期的に作動点検をしている」が16.4%、次いで「布で拭くなどにより、定期的に清掃している」が15.3%であった。(図IV-10-7)

性別・年齢別で見ると、「ひもを引くまたはボタンを押すなどして、定期的に作動点検をしている」は<男性/50歳代>が35.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が29.4%、<女性/40歳代>が24.3%であった。「布で拭くなどにより、定期的に清掃している」は<女性/50歳代>の31.6%が最も高かった。(図IV-10-8)

居住地域別で見ると、「ひもを引くまたはボタンを押すなどして、定期的に作動点検をしている」は<本庁(都心)>が26.2%で最も高く、「布で拭くなどにより、定期的に清掃している」は<本庁(周辺)>が22.5%で最も高かった。(図IV-10-8)

<図IV-10-8>性別・年齢別/居住地域別

